交換留学報告書

＊ この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイトに記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	辻郷 雄大	学年（渡航時）	4 年
派遣先大学	アーカンソー工科大学		
国・地域	アメリカ・アーカンソー州		
派遣期間	2024 年 1 月 ～ 2024 年 12 月		

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
Composition Ⅰ	英作文を書く際の構成について、その方法やテクニックを学ぶ授業。
Composition Workshop	「Composition Ⅰ」で学んだノウハウを使って、英作文を実践する授業。
General Psychology	心理学の入門講座。
Introduction to the University	大学のイベントやサービスについて知ることが出来る授業。

2 学期目	
履修科目	授業内容
Introduction to Philosophy	哲学の入門講座。
Public Speaking	英語を使って人前で流暢にスピーチを行うためのノウハウを学び、それを実践する授業。
Social Media Marketing	ソーシャルメディアを利用したマーケティングの手法について、実践を交えながら学ぶ授業。
Survey of Music History	音楽の歴史について学ぶ授業。

留学レポート（1,500 字以上）

このレポートでは自分が 1 年間を過ごしたアメリカ合衆国・アーカンソー州・アーカンソー工科大学についてざっくりと説明した後に、私の経験について述べさせて頂こうと思います。

まず初めに、留学先のアーカンソー州についてですが、いわゆる「田舎」という感じで、大学の周りにはスーパーマーケットやファストフード店などの最低限のお店しかなく、それらも車で 15 分、歩きで 1 時間ほどかかるような場所にありました。また、市内にバスや電車などの公共交通手段はなく、最寄りの空港も車で 1 時間ほどの場所にあり、よく言えば勉強や現地の人々との交流に集中できる環境、悪く言えば移動が少し不便、といったような立地でした。大学自体はアメリカの大学にしてはこじんまりとしている方で、キャンパスの端から端まで歩いて 15~20 分ほどかかるかなといった印象でした。学生の割合は体感で 7 割が白人系、次いで黒人系の割合が多く、後の人種についてはそれぞれまちまちといった感じでした。日本人は私以外に 12, 3 人ほどおり、日本人の教授も数名いらっしゃったので、何か困ったことがあればそこに頼ることはできます。しかし、留学生をサポートしてくれる留学支援課が積極的に動いてくれるので、何か不便があればそこに相談することで、大抵のことは解決できます。彼らが毎週水曜日に近くのスーパーマーケットまでシャトルバスも出してくれます。また、留学支援課は留学生同士の交流イベントを多く開いてくれるので、そこに参加することで自分の人脈をどんどん広げることが出来ます。留学支援課だけではなく、大学自体も、日本の大学に比べて高頻度かつ規模が大きいイベントを開催してくれるので、それらに欠かさず参加すれば、友達も増えるし、日常で退屈するようなことはあまりないかと思われます。学校外では毎週金曜日に大学近くの教会が留学生を受け入れて、一緒に夜ご飯を食べたり、聖書を読んだり、スポーツを楽しんだりする機会を設けてくれていました。私が留学中に仲良くしていた友達も大半がここで知り合っ

た人々でした。大学内の施設も充実しており、学食・学生の交流センター・図書館・ジム・寮等、大学の中で生活が完結するようにはできています。授業は大学自体がそこまで大きな規模ではないということもあり、授業自体の規模も少数精鋭のことが多く、学生が希望するのであれば、教授に積極的に質問に行ったりすることで手厚い学習サポートを受けることが出来ると思います。生活の拠点となる寮は建物によって差はありますが、不自由のない暮らしはできます。大きな違いはキッチンの有無、風呂トイレが個室 or 共同、ルームメイトの有無などになってくると思います。以上がアーカンソー工科大学のざっくりとした概要になります。

ここからは私自身が経験した印象深い出来事や思い出であったり、どんなところが成長できたのかなどについて語っていきたいと思います。まずは授業についてです。もちろん全てが英語で開講される授業だったのですが、英語で教授の話を聞いて、文献を読むという作業は、自分が留学前に予想していたよりもはるかに難しく、大変な作業でした。覚悟していたつもりではあったのですが、思った以上にタフな経験だったので、最初の 1・2 か月ほどは授業に行くのが億劫で、落ち込む時間が続きました。しかし、これに関しては自分の努力というよりは時間が解決してくれました。やはり日常で英語を使う生活が続くと、耳が慣れてくるものです。最初はほとんど何を言っているのかが分からなかった授業が、断片的にですが聞き取れるようになっていきました。そして留学の終盤では 1 度聞いただけで全ては理解できなくとも、教材の補助や復習を行うことで授業を理解できるようになっていきました。それでも日本での授業に比べると難しいことは事実なので、良い成績を取ることはできませんでしたが、頑張って授業を理解しようともがいた経験は自分の糧になっていると思います。

次に英語と友人関係についてです。まず、留学前の私の英語のスピーキング・リスニング能力についてですが、はっきり言って、中高大とまじめに勉強をしてきた人々には劣るようなレベルでした。しかし、私が自分の会話のスキルに関して自信を持っていたのは、愛嬌と知識の引き出しの多さ、そして「伝えようとする気持ち」でした。私はこれらを自分が持っている限界値の英語運用能力に乗せることで、何とか現地の友人達との会話を成立させていました。ここからもし留学を志している方々に、もしくは留学前の自分に言えることがあるとすれば、「愛嬌・知識があれば、最悪『伝えようとする気持ち』があればなんとかなる。」と「それを前提として確かな英語の実力があれば、もっとスムーズに会話・人間関係の構築が出来る。」という 2 点だと思います。上で述べたようなスタンスだったことで私はスタートダッシュから多くの友人を作ることが出来ました。その中でも特に仲の良い友人はもちろん厳選されていきますが、これは日本でも同じことなのであまり気にしなくてよいと思います。むしろ、一人でも良いから「この人は自分にとって親友だ。」と思える友人を見つけることが大事だと思います。私はありがたいことに留学中にそう思える友人に出会えました。彼と一時期は毎日のように遊び、会話をしていたことも自分の英語能力の向上につながったと考えています。そのように 1 年間を過ごしたことで多くの友人が出来て、様々なことを経験させてもらって、自分の英語は間違いなく留学前に比べて上達し、自信をもって「英語が喋れる」と言える段階にまで引き上げることが出来たと思います。

続いて文化や価値観の違いについてです。これは留学の面白いところであり、同時に大変な部分でもあると思います。幸い、私の周りには優しい人々しかいなかったので、1 年間の留学を通して差別されるような経験をすることはなかったですが、それでも理解し難かったり、どうしても受け入れられなかったり、対して、「これは面白いな。」と感心するような経験も数多くありました。全てをここに書くことはできないのですが、代表的なものを挙げるとすれば、やはり「宗教」だと思います。私が留学していたアメリカではキリスト教が広く信仰されているので、生活のリズムもそれに根付いていることが多かったです。会話の節々に神に感謝するようなニュアンスの言葉や言い回しが含まれていたり、日曜日の礼拝のように生活の 1 アクションに宗教を基にした行動が当たり前のように含まれていたりしました。上述した私が現地で最も仲の良かった友人も普段はふざけてばかりの人間なのに、キリスト教の話になると、人が変わったようにまじめになって、お互いの死生観について夜通し語り合ったこともありました。このように日常のあらゆる場面で「違い」を感じれる機会があるのは留学生活の醍醐味であると思いました。

次に「日本人学生団体での活動」についてです。実はアメリカでの日本文化の人気具合は私達が考えているよりもはるかにすさまじく、爆発的なものでした。私も現地で初めて話す人々に日本人であることを伝えると質問攻めにあう、という経験を何度もしました。そのような中で私が通っていたアーカンソー工科大学には日本人留学生が中心となって活動している「Japanese student association」という団体があり、日本文化を広めることに尽力していました。少しでもそのお手伝いが出来れと考えた私は、留学当初からその団体に所属し、様々なイベントで日本文化がもっと皆の知るものになるよう努めていました。その甲斐もあって、後期はその団体のプレジデント（部長）に選ばれました。大きな任を託された私はそれまで以上に張り切って活動に取り組み、年間を通して最も規模の大きいイベントである「Japan Night」を大成功に導くことが出来ました。ここでの活動は私の留学経験での成長に大きく貢献してくれていると思います。

最後に「旅行」についてです。私は長期休暇や時間があるときに暇を見つけてはアメリカ国内を一人で旅行するようにしていました。この経験は留学中に私を成長させてくれた大きな要素の一つだと考えています。まず、すべてがアメリカンスケールで様々なことに圧倒されます。現地での食事一つとっても新鮮で知らないことがどんどん出てきて、ただ街を歩いているだけなのに、次から次に自分の中に情報が入ってきて、新しい興味関心が生まれます。こんな経験はまず日本ではできないと思います。また、一人で旅行をすることで自分がしたいことを自由にできて、そしてどんな困難も自分一人で乗り越える経験が出来ます。これを日本ではなく、異国の地でやったというのは自分にとって大きな自信につながりました。

以上が、私が 1 年間の交換留学を通して感じたことの全てです。詳細に書こうと思うとこのレポートにはまとまりきらないのでここまでにしておこうと思います。とにかく私は、何があろうとも、この留学をすることを決意した自分に後悔することはないでしょう。そう言い切れるほどに満足のいく充実した 1 年間でした。このような機会を与えてくれた長崎大学と両親に感謝したいと思います。ありがとうございました。

留学中の写真（5 枚程度） ※写真のキャプションも入れること

「Japan Night」後のメンバーとの集合写真

金曜日の教会メンバーとの集合写真

大学のマスコット犬と

一番仲の良かった友人達

グランドキャニオンにて